

福島県言語聴覚士会では9月1日(日)に郡山市の総合南東北病院NABEホールにて「認知症市民フォーラム～9月1日は言語聴覚の日～」を開催致しました。

今年度は“きこえ”と“歯周病”の認知症への関係をテーマに、当日は市民の方も多くご参加頂きました。

始めに郡山市地域包括ケア推進課課長 山内憲様から「郡山市の認知症施策について」お話し頂きました。



“きこえ”については、当会の山田奈保子副会長から「認知症と“きこえ”って関係あるの？～今からできる予防策～」を題に講演して頂きました。

加齢性難聴は高音域の障害が特徴です。これは聴こえる音の幅が狭くなるが聞こえている状態であるので自覚症状が少ない傾向となります。そのため、いかに“きこえにくさ”について早く気づき適切な対応を行うことが大切です。また耳垢による聴力の低下がみられる例もあり、“きこえ”について気になる際は、早期に耳鼻科へ受診して頂ければと思います。



“歯周病”については、南東北医療クリニック歯科の渡部光弘先生から「歯周病と認知症の関係」を題に講演して頂きました。

歯周病とは？から始まり、診断、治療、認知症との関係など広く丁寧にお話頂き、歯周病についての理解も深まったかと思われます。特に歯周病と糖尿病はお互いの病態を悪化させ、歯周病の進行に伴い歯を失ってしまうことがアルツハイマー型認知症のリスクが高めてしまうとのことです。こちらでも定期的に歯科受診を行い口腔のチェックを行うことが大切です。

「認知症の35%は予防・修正が可能な要因により起こると考えられている」との報告もあり、その9つの要因の中には“難聴”や“糖尿病”があるといわれております。

食べる事は“生きる事”に、よく聞きよく話すことは人生の“活力”に、健康な“生活”を支える柱となる口と耳の専門職の言語聴覚士についてより広く知って頂けるよう、今後も活動してまいります。

広報部 櫻井 亘